

茨木市立 郡山小学校 茨木っ子グローイングアップ計画

平成29年10月作成

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	・基礎的な生活習慣の定着を進めていくとともに、様々な生活体験を通して心情豊かに、安心して過ごせる集団をつくり、遊ぶこと、体を動かすことが楽しいと思える子どもを育てる。 ・校区全体で、つながりを持って取組を展開し、一人も見捨てず、集団づくりと授業づくりの連携のなかで、全ての子どもたちが、違いを認め合い育ち合う集団をつくる。	●保、幼、小、中、高、大、地域、連携の情報共有発信 ・小小交流を進める。 (6年生同士の合同授業)(児童会交流会) ・共通実践を模索する。(同和教育や多文化共生教育) ・保幼小での段差解消に努め、職員同士が学び合う。(相互参観)幼稚園が小学校のプールで活動、幼小給食交流 ・いきいきスクールを活用し、中学校の教員が小学校へ来校し、授業などを行う。 ・合同授業研での柱を再確認し、授業づくりを共に行う。	●保、幼、小、中、高、大、地域連携の具体的実践の定着化 ・小小交流会において各校の実践を共通化させていく。共通実践の具体化を進める。 ・委員会や行事における交流を増やし、小小の子どもの出会いから学びを仕組む。	●校区全体での連携推進 ・高校卒業時点を視野に入れ、豊かな進路選択ができるような、学力・生活習慣の定着。 ・小小、小中の教員が校区の課題を共有し、共に実践を語り合い、一丸となって取組みを進めていく。 ・成果と課題の分析。
確かな学力の育成	「聴き合い、学び合う」授業づくりを柱に学校一丸で取り組む。対話的な学びの中で一人ひとりの子ども達が主体的に自分の考えを持ち、表現できるように育てる。 ・校内研、研究会の充実、外部講師との連携。豊川小学校との実践を共有化するための交流。 ・縦割り活動を様々な分野で活性化。 ・学びルームなどの放課後の補充学習の実践および検証、中学への引き継ぎを視野に入れた形態へ。 ・ペア、グループ活動を定着させ、学び合い、集団作りの核とする。 ・ふりかえり週間を年間通して意識化し、定着を図る。 ・英語の授業カリキュラム、実践に向けて研究する。 ・一人ひとりの子どもが安心して学び合い、分かりやすいユニバーサルデザインの授業づくりを研究する。	1学期に教員全員が授業を開き、ブロックで研究会を行う。年間を通して聴き合い学び合う授業、ユニバーサルデザインの授業について考え学ぶ時間を保障する。 - 三校合同授業研 年間5回実施。その中で夏季校内研のビデオ研、郡山小公開研に向けての授業づくりを全教職員で取り組む。豊川中学校と豊川小学校の授業づくりに参加し、授業・研究会から学ぶ。 - 語彙力や漢字の力をつけるための校内漢字検定を作成、実施。 - 縦割りの学習会を実施 - ぬくもり作文の公開研を通して、書く力や集団づくりを教職員が学び、子どもの表現する場を増やす。 - 校内学力診断テストやまとめテストで得た結果を分析、共有し、授業づくりに取り組む。 - 児童会から発信する学力保障の取り組みを主体的に推進し、学校全体に広げていく。 - 主体的に学ぶ姿を育てる取り組みとして自主学ノートをすすめる。 - 学びルーム、なかよし、パンダ教室などの放課後学習による個別支援をすすめる。	① ～⑨を継続して行う。 ⑩ 成果と課題を分析する。	① ～⑨を継続して行う。 ⑪ 成果と課題を分析する。 ⑫ 3年間の成果を検証する。全国学力調査や校内診断テストの経年比較などを活用する。
豊かな人間性を育む	・一人ひとりの人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高める。 ・よりよい社会と幸福な人生を自ら作り出していく力を育む。 ・認め合い、命を大切にすることや自己有用感・自尊感情を育てる。 ・差別を見抜き、行動する力をつける。 ・自分の中にある差別性に気付く。	1学期・3学期に集団づくり交流会をもち、教職員全体で全児童の把握を行い、今後の手立てを見つけていく。 - 学年部会で連携し、各学年の児童の実態に合わせた人権総合学習の計画をたて、年間を通して検証していく。保護者や地域と連携した学習をすすめる。 - 縦割りの学年交流を年間通して実施。 - 多文化共生教育を深めるために研修を実施。各学年で引継ぎ資料を残し、学校として系統立てたカリキュラム作成をすすめる。 - 同和教育を豊川中学校区で連携しながらすすめる。各学年で引継ぎ資料を残し、学校として系統立てたカリキュラム作成をすすめる。 - 障害者理解教育を各学年系統立ててすすめる。 - 性に関する指導・男女共生教育を各学年すすめる。 - キャリア教育を各学年すすめる。 - 道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、道徳教育を進める	① ～⑨を継続して行う。 ⑩ 成果と課題を分析する。	⑪ ～⑨を継続して行う。 - 授業案などの成果物を作成。成果と課題を分析する。
健康体力の増進	・いろいろな器具・遊具とふれあい、運動の楽しさを知る。 ・運動が好きになり、自分からしてみたいなという意欲を育てる。 ・個人だけでなく、ペアやグループでできるようになった喜びを感じられるような授業改善。	- 体力テストの課題を分析し、苦手種目の向上策を検討、対策。 - 運動する機会を縦割り活動、体育、委員会活動などで意図的に増やす。 「こおりやマンラリー」の継承と振り返り。 - 体育の授業スタンダードや6年間の系統的なカリキュラムの共通実践。 - 連環に向けた取り組みと各学年の年間指導との連携。 - 校内で体育の授業づくりを行う。(児童が主体的に体を動かす授業の中で、考えたり、工夫したりできるような場を与え、達成感を得られる授業の工夫を模索)	① ～⑥を継続して行う。 ⑦ 成果と課題を分析する。	① ～⑥を継続して行う。 ⑧ 成果と課題を分析する。 ⑨ 3年間の成果を検証する。全国学力調査や校内診断テストの経年比較などを活用する。
支 援 教 育 の 充 実				

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
課題が残る結果であった。
- ② 書くこと
課題が残る結果であった。
- ② 読むこと
課題が残る結果であった。
- ③ 言語事項
課題が残る結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式
課題が残る結果であった。
- ② 短答式
課題が残る結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
やや課題が残る結果であった。
- ② 書くこと
課題が残る結果であった。
- ③ 読むこと
課題が残る結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式
やや課題が残る結果であった。
- ② 短答式
概ね良好な結果であった。
- ③ 記述式
課題が残る結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

分析

- ・国語Aでは特に俳句を紹介する問題で情景や作者の思いを想像するという力に課題が残った。
- ・国語Aの正答率が最も低かったのは、手紙の後付けの問題で、日付・自分の名前・相手の名前という書き方が定着していなかった。
- ・漢字の問題では前後の文章の意味から、同音異義語を考える読み書きの問題が難しかった。
- ・国語Bではある物語についての話し合いについての問題が出題され、その中で60字以上100字以内という字数制限のある問題の正答率が低かった。考えた理由を記述するという課題を原稿用紙に書く。また、同じような問題として、水やりが大変な理由をアドバイスから2つ取り上げて30字以上60字以内にまとめて書くという問題も正答率が低かった。
- ・国語ABともに全般的に課題が残った。特に要旨をまとめる、自分の考えを書く問題の正答率が低い。長い文章や資料などが多いと読み切れない。初めて読む文章の量が多すぎて、問題の概要を理解できず、読む前にあきらめてしまう傾向がある。問題の問われ方、解答の仕方が普段のテストにはあまり見られない。

〇●算数●〇

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算
概ね良好な結果であった。
- ② 量と測定
課題が残る結果であった。
- ③ 図形
概ね良好な結果であった。
- ④ 数量関係
やや課題が残る結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式
課題が残る結果であった。
- ② 短答式
概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算
概ね良好な結果であった。
- ② 量と測定
課題が残る結果であった。
- ③ 図形
概ね良好な結果であった。
- ④ 数量関係
やや課題が残る結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式
やや課題が残る結果であった。
- ② 短答式
やや課題が残る結果であった。
- ③ 記述式
やや課題が残る結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

分析

- ・割り算の商を分数で表わす問題の正答率が低かったが、概ね計算については定着している。
- ・図形の面積を計算で求める問題では、底辺の長さが高さがそれぞれ等しい場合、三角形の面積は平行四辺形の面積の半分であるという理解が難しかった。
- ・平均の求め方について、工夫して求める課題が出ており、能率的に処理する力が求められている。
- ・日常生活の事象を表やグラフを基に考察する力が問われ、その事象を割合を表す円グラフで表現できるかが問われる問題で正答率が低かった。
- ・算数の正答率については全国を上回る問題が5つあった。概ね全国に近づく数値であった。
- ・文章問題が長く、情報量が多い問題は正答率が低い傾向にある。短い時間の中で、長い文章問題をあきらめずに読み取り、情報を整理できる力をつける必要がある。
- ・何を問われているのかを把握し、的確にその意図を理解して読みとるのが難しい。
- ・授業では日常生活に即した情報量の多い課題を提示し、グループで課題を解決していく道筋を探究していく必要がある。
- ・基礎基本の部分は、くり返し丁寧な指導が必要である。単元が終わってからも、重要な学習に関してはさらに積み上げていく取組が必要。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

各教科を比較すると、毎年算数 A が上位に、ついで国語 A が上位にきたが、今年度は算数 A の次が算数 B となった。算数 B の数値は維持されたものの、算数 A の伸びもあまりない。国語は A、B ともに大きな課題がある。

複数年またいで経年比較すると、ゆるやかではあるが、上昇傾向であるともいえる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層が少なく、学力低位層が多い。算国 A での高位層が少なく、算国 B での低位層が多い。エンパワー層の割合は非常に高い。

〇●取組み●〇

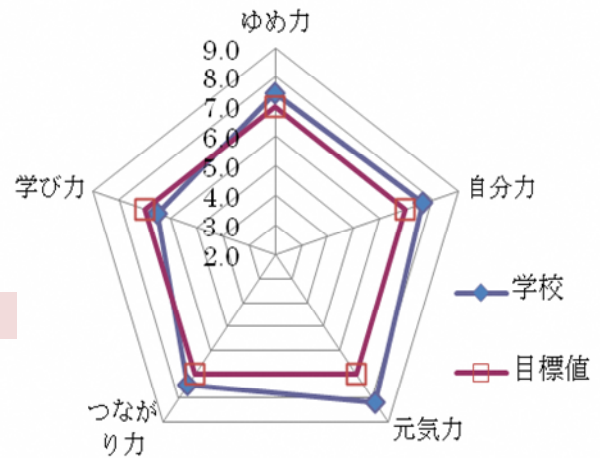
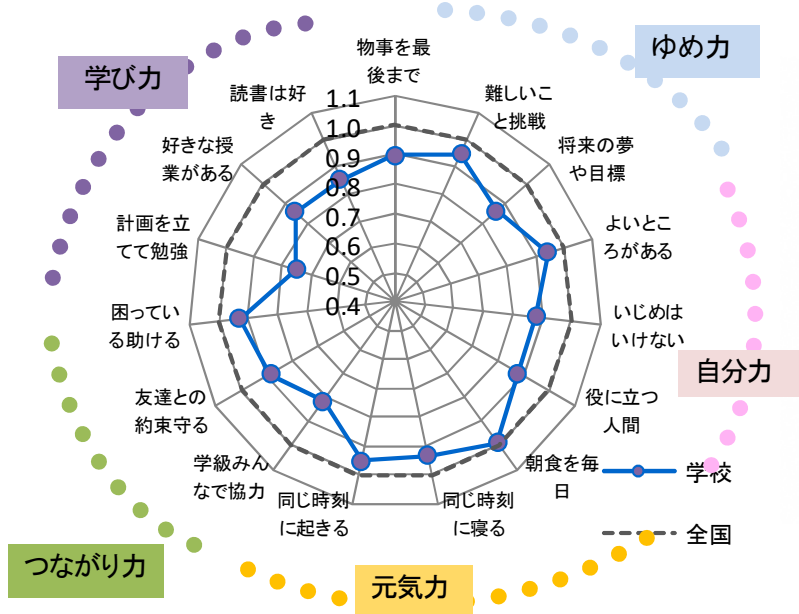
学力向上に関する取組み

- ・**聴き合い、学び合う子ども達**を育てるために、授業づくりを研究し、ペア、グループ学習などで友だちの意見を聴く、自分の考えを表現するなどの力をつける。
- ・**校内授業研**を 1 学期に全教職員が公開し、学校全体で取り組む授業のあり方、方向性を共有化し、子どもたちにつけたい力や普段の授業力向上に生かす。
- ・授業後の**研究会**では、ビデオでの授業検証、全員発言、ふりかえりシートの活用によって、教職員全員の学びを全体に広げ、一人ひとりの教材づくりや子どもをつなぐ視点などを養う。
- ・**3 校合同授業研**（中学校 2 回、夏季ビデオ研（両小）、両小学校 1 回ずつ）で同じ視点で授業づくりを行う。それぞれの授業づくりに参加し、3 校の学びを深め、広げていく。
- ・**豊川ネットワーク**の学力保障部会で月に 1 回顔を合わせて、幼小中連携を密にし、それぞれの取組を交流し、情報共有を行う。実態把握と課題の共有をし、共通実践を模索する。
- ・放課後の**学びルーム、パンダ教室、なかよし教室**における個別の課題に対応した取組を毎日行うことで、学力低位層の底上げや学習内容の定着を図る。
- ・表現することを保障し、子ども同士をつなぎ、教員が子どもとつながるための**作文教育**（ぬくもり作文）に取り組む。ぬくもり作文として、子どもたちにおもしろい作文をシャワーのように浴びせて紹介し、書いてみたいという雰囲気をつくる。書きたくなったら題材を集めて作文を書く。書いたものをクラスや全校で紹介する。表現する喜びや自己解放を促し、安心して自分のことを出せる集団づくりにもつなげていく。
- ・**ふりかえり週間**に年間 5 回取り組む中で、生活のリズムや学習への態度を養う。学習へ向かう姿勢・準備物などの基盤づくりをクラスで話し合い、自分たちの課題として取り組む。
- ・**授業規律**などのスタンダードを学校文化として定着させて、6 年間を見据えた共通認識を持つ。郡山スタンダードの下敷きの活用をする。
- ・朝の時間は朝読と**ショートストーリー**、百マス計算に取り組む。朝読では落ち着いたスタートをさせるとともに、集団貸し出し、図書委員会の読み聞かせにより、読書の楽しさに触れ、国語力の向上につなげる。ショートストーリーは 5 分程度で読める文章を全員で読んで、その後に何が書かれていたかをペアで交流する。
- ・**全校縦割り学習**「こおりやマントタイム」を実施し、高学年が低学年の算数の問題を教える中で、低学年の学力保障をすると共に、高学年の学習に向かう姿勢や優しく関わる力を育み、自尊感情を高める。
- ・自らの学習意欲を高めるために、**児童会**による学力向上の取り組みを仕組む。朝学のプリント、算数マニュアルを作ったり、ペアやグループのよさや**校内漢字検定**について提案する。
- ・**自主学ノート**の推進 自主学ノートによる勉強への意欲関心を高め、自分から学習に向かう態度を養う。職員室前に掲示し、全校で共有できる取組にする。
- ・一人ひとりの子どもが安心して学び合い、分かりやすいユニバーサルデザインの授業づくりを進める。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較

5つの力 目標値との比較



分析

- ・朝食を毎日食べるという項目がかろうじて全国に近いが、それ以外は全て全国を下回る数値となった。特に計画を立てて勉強するという項目や学級みんなで協力するという項目も低い。いじめはいけない、友達との約束を守る、夢や目標がある、好きな授業がある、読書は好きの項目も0.85前後と低い。
- ・同じ時刻に寝たり起きたりといった生活習慣は一定習慣化されている。ふりかえり週間などで、生活習慣の部分で一定の成果を得られている。
- ・今後、計画をたてて勉強するという中学校で重要になってくる力をつけていく必要がある。また、集団づくりの計画をたてて実践していく必要がある。
- ・学力との相関関係を分析しながら、5つの力が学力や学習態度に大きな影響を及ぼすことを念頭に置き、学校全体の取組をすすめる必要がある。

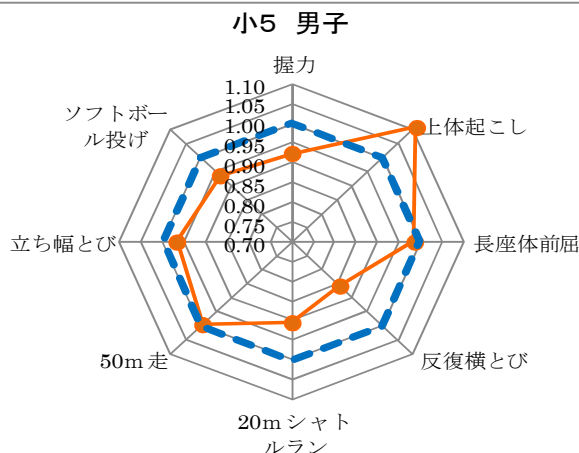
取組み

- ・**児童の主体的な活動**を増やす。どんな学校にしたいかを各学年で考えて、その目標に向けて具体的な取組を考える。各種委員会活動を活性化し、児童主体の取組を促す。
- ・**集団、学級づくり**ではマイワークなどの取組を行い、自分の仕事をクラスで位置づけて認められる活動にする。安心ルールやもちあじなどのワークを取り入れて、居心地のよいクラス、夢（目標）に向けて努力できる集団をつくる。また高学年では実行委員会の仕組みをつくり、各学年の行事も児童主体に動かす。
- ・**人権総合的なカリキュラムの構築**を学校全体で行う。各学年で取り組む人権総合カリキュラムを作っていく。人権教育委員会や低中高部会が中心となり、子どもの実態から出発する人権教育を実践する。多文化共生を柱とし、豊川小学校が実践している同和教育からも学ぶ。
- ・**全校縦割り学習**により、高学年としての自覚や低学年にやさしく接する態度を養い、学習の振り返りを行うとともに、学校全体を見る意識を育てる。低学年は難しい課題を一緒に考えてもらいながら学習の定着を図り、高学年のやさしさに触れ、憧れを抱く。
- ・**全校縦割り遠足**を柱にした縦割活動の年間を通した取組によって、高学年としての自覚、行動をモデル化し、異年齢の人間関係を築く力をつける。
- ・**ふりかえり週間**による生活リズムの安定や学習習慣の定着化に取り組み、保護者との共通理解、連携をはかり、地域で子どもを育てる中心的な役割を果たす。
- ・各教科の**授業づくり**で、子ども達が楽しいと思えるような教材設定や活動を取り入れる。日常生活につながる課題をつくることで、主体的に向き合う意欲の向上と課題を解く達成感、有用感を持たせる。授業で集団作りをし、子どもどうしをつなぎ、信頼関係を築いていく。

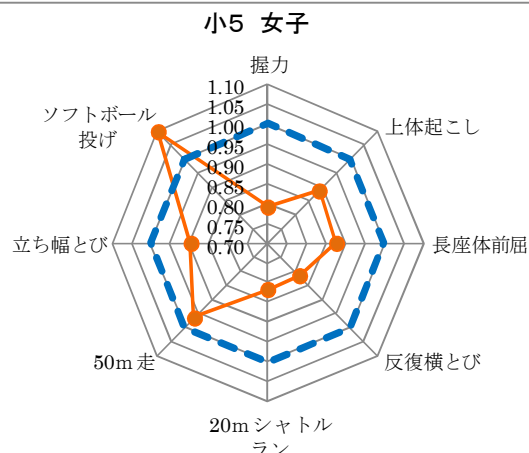
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

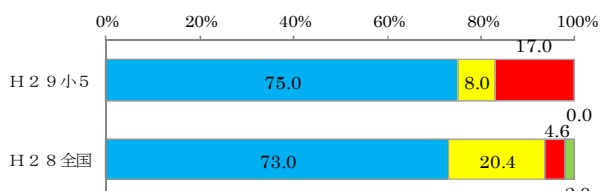
男子 (小5)



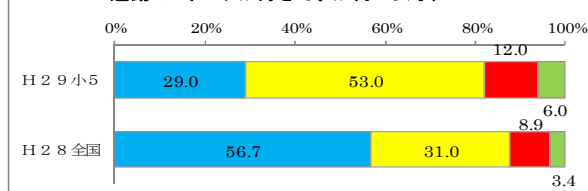
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- ・男子の上体おこしと女子のソフトボール投げ以外は全国を下回る数値となった。
- ・男女ともに反復横跳びに課題が残る結果となった。
- ・女子の数値が男子と比べて概ね下回る結果となった。
- ・特に女子の握力、20mシャトルラン、反復横跳び、長座体前屈、上体起こしが課題の残る結果となった。
- ・男女ともに50m走は概ね良好な結果となった。

取組み

- ・**茨木っ子運動Ⅱ**の活用を全校で取り組む。郡山小オリジナルの茨木っ子運動Ⅱを授業最初に必ず実施し、体の使い方を意識し、体幹を鍛える。
- ・**6年間を見据えた系統的なカリキュラムの作成** 各学年で取り組む体育の内容を重なりやもれ落ちがないように作成する。ボール、器械、陸上、水泳、体づくりなど領域の中で縦のつながりを考える。
- ・三角竹馬、一輪車など**器具や遊具の充実化**をはかる。三角竹馬、バランスボール、バランスディスク、運動遊びロープなどを取り入れていく。学級のボールを3種類にし、外で遊ぶきっかけをつくり、意欲向上をねらう。
- ・**全校みんな遊び**(朝会、昼休み)を取り入れ、体を動かす機会をつくり、その楽しさを知る。
- ・**こおりやマンラリー** 毎週20分休みに全校児童が運動場に出て、6種目の運動にチャレンジする。50m走、走り幅跳び、800m走、鉄棒、なわとび、ヤットコで記録をとる。この取組から今回の50m走の記録が向上したと言えるのではないと思う。ラリーの種目を見直し、課題である反復横跳びや握力についても取り入れていく。
- ・**校内団地マラソン大会**に向けた朝マラソンを実施する。運動をすることで1時間目の授業にも気持ちよく入ることが出来る。その中で昨年の記録を上回る自己記録の更新を目指す。
- ・**なわとび週間**に向けた体育委員会主導の活動に取り組み、大縄大会を開催する。
- ・**放課後の校庭開放**による遊び場の確保と、道具貸し出しによる様々な動きの経験を推奨。